

評価会議（平成27年度期末）における委員の評価及び意見

(ア) 取組実績の評価（1）：事業の実施状況

評価点 (配点 30 点)	A 委員	B 委員	C 委員
	20	20	15

(イ) 取組実績の評価（2）：事業の実施体制等

評価点 (配点 20 点)	A 委員	B 委員	C 委員
	10	10	10

(ウ) 取組効果の評価：目標等の達成状況

評価点 (配点 50 点)	A 委員	B 委員	C 委員
	30	30	30

(エ) 総合評価

1 総合評価Ⅰ

項目	A 委員	B 委員	C 委員
(1) 地域課題等の把握・分析・整理	B	A	B
(2) 目標（支援策）の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	B	B	C
(3) 区のマネジメントに合った取組	B	A	B

主な意見等

- ・ 地域活動協議会のあるべき姿をより明確にし、地域状況とのギャップを埋める支援方策が求められる。(A 委員)
- ・ 活動方針は明確であるが、進捗の可視化をするとともに、マネジメントの強化を図りたい。(B 委員)
- ・ 区のニーズに沿って活動ができている。(B 委員) 「民主的」「自律」「自立」の評価基準を明確にし、共有されたい。(A 委員)

2 総合評価Ⅱ

項目	A 委員	B 委員	C 委員
総合評価（全体）	B	B	B

主な意見等

- ・ 地域からの要望ではなく、地域活動協議会のあるべき姿へ向けての支援が必要と考える。(A 委員) それぞれの事業や取組により、どう達成されようとしているのか明確にし、支援に取り組まれない。なお、言葉や語り方などの手法も地域支援の成否にかかる重要な要素になると考える。(C 委員)
- ・ 高齢化という地域特性に鑑み、担い手の発掘、育成が急務と考える。組織の自律運営には

必須である認識を共有化し、効果的な戦略を練られたい。(B委員)

(評価基準)

- S : 本市の求める水準を大幅に上回る効果が得られた
- A : 本市の求める水準以上の効果が得られた
- B : おおむね本市の求める水準どおりの効果が得られた
- C : 本市の求める水準の効果が得られていない